

## はじめに

教育委員会事務局では、二谷小学校を「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針（平成29年5月策定）」に基づき、建替校に選定しました。

同方針に基づき、令和3年に築65年を迎えた二谷小学校の建替えの検討にあわせて、小規模校となっている隣接の齋藤分小学校（一般学級の児童数195名・7学級/令和6年5月1日現在）との学校統合の検討を始めました。検討にあたっては、地域、保護者の代表及び学校長からなる検討部会を設置し、延べ6回にわたり、検討部会を開催し、議論を行ってまいりました。

この度、令和6年9月19日に第6回検討部会において、『『齋藤分小学校・二谷小学校』建替えに伴う学校規模適正化等に関する意見書（以下、意見書という）』が取りまとめられました。

その後、当意見書は、令和6年12月4日開催の「横浜市学校規模適正化等検討委員会」にて、部会長より提出され、検討委員会にて審議が行われました。審議の結果、「意見書のとおり、齋藤分小学校と二谷小学校の学校統合は行わず、齋藤分小学校は当面の間、存続することとし、二谷小学校は単独での建替えに着手されるよう答申する。」旨の答申書が確定されました。

答申書はその後、教育委員会に報告され、答申書のとおり、齋藤分小学校については、当面の間、存続することとし、二谷小学校については、単独での建替えに向けて具体的な検討に入ることとなりました。

## 第6回検討部会

日時：令和6年9月19日（木）  
18時30分から

会場：神奈川区役所  
本館5階大会議室A、B



## 決定事項など

- 第6回検討部会にて、『齋藤分小学校と二谷小学校の学校統合は行わず、齋藤分小学校については当面の間存続し、二谷小学校については、単独での建替えに着手すべき』との結論に至り、横浜市学校規模適正化等検討委員会に提出する「意見書」を確定しました。
- 「意見書」は、令和6年12月4日に開催された令和6年第2回横浜市学校規模適正化等検討委員会に提出され、当検討委員会にて審議を行いました。審議の結果、『意見書のとおり、齋藤分小学校と二谷小学校の学校統合は行わず、齋藤分小学校は当面の間、存続することとし、二谷小学校は、単独での建替えに着手されるよう答申する。』とした「答申書」を教育委員会へ提出することが決定しました。
- 「答申書」は、教育委員会へ提出され、教育委員会委員への確認・了承をもって、「意見書」及び「答申書」のとおり、『齋藤分小学校は当面の間、存続し、二谷小学校は単独での建替えに着手する』ことを決定しました。

## 【検討部会委員の任免等】

検討部会委員のうち2名の方について、役員交代等の理由により、退任の申し出をいただいたため、横浜市学校規模適正化等検討委員会条例第5条第2項に基づき、新たに1名の委員を任命しました。

### 1 退任した委員（敬称略）

氏名	選出区分	役職名等
小泉 純一	学校関係者	栗田谷中学校 前校長

### 2 任命した委員（敬称略）

氏名	選出区分	役職名等
米盛 司	学校関係者	栗田谷中学校 校長

（当日資料）

## 【第5回検討部会開催以降に寄せられた意見】

第5回部会（令和6年3月21日）から第6回部会（令和6年9月19日）までに寄せられた御意見は全10件ございました。



※ お寄せいただいた御意見等は、全て検討部会にて報告しています。なお、紙面の都合上、要旨を掲載しています。

- 斎藤分小の存続を希望しています。特に放課後キッズクラブの維持を希望しています。親も子どもも安心して預けられる放課後キッズクラブの継続を希望します。
- 学校統合に賛成です。過疎地域でもなく、周辺に小学校が多数ある状況で、クラス替えができない6年間を過ごす必要はないと考えています。
- 仮に学校統合となった場合、保護者としては、通学距離が遠くなることに不安を感じています。その場合、スクールバス等を出すなどの手段を講じてほしいです。
- これから入学予定の保護者としては不安です。現在、小学校に通っている保護者からは小規模校だから6年間の間に、2度PTAが回ってくる等、デメリットの声しか聞こえず、最初から別の小学校に通わせたいと考える保護者の声も保育園で聞こえてきます。
- 学校の統廃合は必ず意見が割れ、関係者で結論を出すのは難しいと感じました。検討部会での意見を踏まえ、教育委員会事務局で方向性を決めていくしかないと思います。二谷小の立場だと、建物は老朽化しているのは間違いないので、早く結論をだして建て替えるべきだと思います。斎藤分小の立場としては、小規模校は、メリットよりもデメリットの方が大きいと思います。いじめや、教師とのトラブルへの対応策として、複数クラスが有効であることは間違いなく、児童が増えることで、教職員が増えることも大きなメリットだと思います。地域防災拠点が近所なくなることを心配している人もいますが、拠点はあくまでも学校のサブ的な役割であり、本業を犠牲にして廃校しない、というのは理由になりません。学区が広くなり、通学環境が悪化するという意見もありますが、通い続ければ当たり前になり、通学環境は慣れることはできますが、校内の学習環境が抱える課題は解決しないので、そこに重きを置いてほしいです。
- なぜ敷地の狭い二谷小学校の建替えにあわせて、斎藤分小学校と統合させようとしているのか。市として真剣に少子化に取り組み、子どもを増やそうとしているのなら、家族世帯を増やし、両校ともに活性化させていけば良いのではないのか。なぜ学校縮小の方向に舵を切ろうとしているのか分からない。
- 斎藤分小学校を近隣小学校の受入校として残すことで、授業のデジタル化推進、様々な境遇の子どもへの教育機会提供と底上げ、地域コミュニティの活性化と熟成、行政への信頼感に寄与できると思います。
- 斎藤分小学校は「知らない人がいない」「リーダー経験が多い」などのメリットが他のデメリットに加え大きいです。「逃げ場がない」「一度関係がこじれると修復が困難」などの意見がありま

したが、実際にそうしたことは中々なく、先生や周りの友人も関係修復に向けて協力してくれます。休日のグラウンドや体育館の利用団体も幾つかあり、地域の方や保護者との交流も生まれています。学校運営だけではなく、地域一体となって成り立つ斎藤分小学校なので、なくすようなことはやめてほしいです。

- 地域の方の声ばかりが大きく取り上げられている印象があり、当該児童の両親の声が正しくヒアリングされているか疑問に思います。一番影響を受けるのは今後入学予定の児童ですので、学区内の幼稚園を通してアンケートを実施する等、当事者からのヒアリングを行ってほしいと思います。
- 斎藤分小学校の統廃合について賛成です。本来、クラス替えは「いじめ防止」等のネガティブ事案の抑止が目的ではなく、新しいコミュニティでの対人関係構築が大きな目的です。児童の人格形成には、クラス替えに伴う、対人関係再構築の経験が非常に重要です。教育は学力の発達・保持にのみならず、人格形成も重要な獲得目標です。教育行政として児童発達に責任をもち、児童のコミュニケーション能力の鍛錬にも繋がる「クラス替え」の機会を保障してください。

## 【青木小学校の検討状況について（経過報告）】

### 1 青木小学校の児童数推移

#### (1) 令和6年度義務教育人口推計（一般学級）

学校名		R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	保有教室数
青木小	児童数	743	785	787	784	794	800	820	25
	学級数	24	24	24	24	25	26	27	

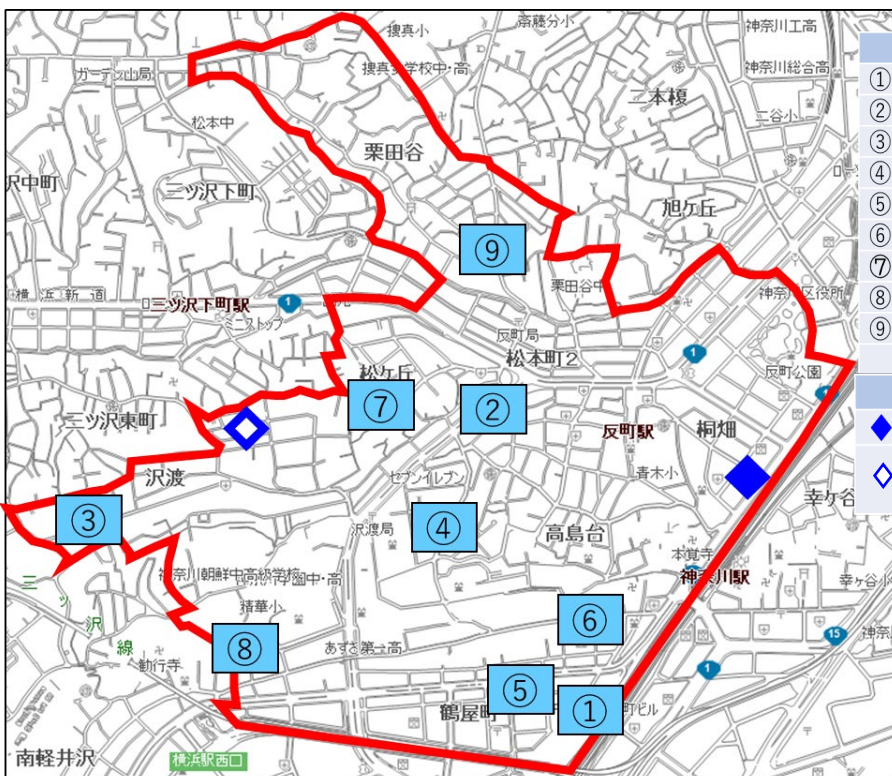
※R6は5月1日時点の実数値。R7年度以降は令和6年度義務教育人口推計に基づく推計値

#### (2) 児童数が増加する背景

青木小学区内では、民間企業の社宅が閉鎖され、その跡地にマンションが建設される等、土地利用転換によるマンション開発が増加しています。

入居時期が未定の開発については、義務教育人口推計に取り込んでいないため、現在の推計値よりもさらに児童数が増加する見込みです。

#### 【青木小学区内の開発状況】



開発所在地	入居年	住宅種類・総戸数
① 鶴屋町1丁目41番	R6	集合分譲住宅・459戸
② 泉町16番5	R7	集合賃貸住宅・16戸
③ 沢渡54番2	R7	集合分譲住宅・36戸
④ 高島台24番1	R7	集合分譲住宅・98戸
⑤ 鶴屋町2丁目9番	R7	集合分譲住宅・80戸
⑥ 台町8番1	R7	集合分譲住宅・80戸
⑦ 松ヶ丘47番	R7	集合賃貸住宅・23戸
⑧ 沢渡4番2	R9	集合分譲住宅・53戸
⑨ 栗田谷15番11	R10	集合分譲住宅・70戸
<b>総戸数 915戸</b>		

#### 今後開発が想定される場所

- ◆ ガーデンセンター横浜跡地（桐畑）京急不動産
- ◆ JR東日本松ヶ丘寮跡地（松ヶ丘）東急不動産  
JR東日本都市開発

※今後開発が想定される場所（ガーデンセンター横浜跡地、JR東日本松ヶ丘寮跡地）は、不確定要素を含むため、令和6年度義務教育人口推計には開発後、入居する児童数を取り込んでいません。

## 2 一般的な不足教室対策

### (1) 多目的室等の一般教室転用などの施設面での対応により必要な教室数を確保 (留意点)

- ・グラウンド面積が狭く、プレハブ校舎の設置は授業や地域活動等に支障があることから慎重な判断が必要です。 ※青木小敷地面積…9,288 m<sup>2</sup>

### (2) 通学区域の見直しによる教育環境の確保

## 3 青木小学校運営協議会からの意見書について

令和6年7月19日付で青木小学校の学校運営協議会から教育委員会に意見書が提出されました。

### 【意見書内容<抜粋>】

- ・いたずらに教室の改修工事を繰り返すのではなく、まずは青木小学校の教室不足問題を解消するためのありとあらゆる手段を検討したうえで、対応案を示してほしい。
- ・検討にあたっては、地域、保護者、学校等と話し合いを重ねながら、児童を最優先としつつも学校及び地域にとって、最善な結果となることを目指して取り組んでいただきたい。

### ※青木小学校における不足教室対策について

青木小学校の学校規模適正化を図るための具体的な検討を進めるため、教育委員会からの諮問に基づき、横浜市学校規模適正化等検討委員会において、「青木小学校」学校規模適正化等検討部会が設置されました。

その後、令和6年10月11日に地域向け説明会を実施し、「青木小学校」学校規模適正化等検討部会の第1回検討部会を同年12月12日に開催し、青木小学校の不足教室への対応策を地域・保護者をはじめとした学校関係者と検討が開始されています。

## 【学校統合について（教育委員会事務局からの提案）】

※紙面の都合上、抜粋しています。全文は、右記QRコードより御覧いただけます。

(当日資料)



### 1 検討部会としての方向性

斎藤分小学校と二谷小学校は学校統合を行わず、斎藤分小学校については当面の間存続とし、二谷小学校については、単独での建替えに着手すべきと考えます。

### 2 斎藤分小学校

青木小学校の不足教室対策の一環として、今後、斎藤分小学校との間で通学区域の見直しが行われる場合は、同校は適正規模校になる可能性があることから、現時点では学校統合を行わないことが適当と考えます。

今回学校統合を行わない場合、これまで本検討部会で積み重ねた議論をベースにしつつも、再検討時の児童数等の状況及び将来の周辺地域の開発状況を踏まえて、学校校舎の目標耐用年数である70年を目途に改めて検討することを提案します。その際には、斎藤分小学校の通学区域の再編成や老朽化対策の手法等を議論することを提案します。

### 3 二谷小学校

斎藤分小学校が適正規模校となる可能性があることから、斎藤分小学校との統合を見送り、二谷小学校単独で建替えの検討を進めていくことが適当と考えます。その際には、児童が安全、安心で快適な学校生活を送れるような学校施設を目指すとともに、学校関係者・地域関係者の意見を伺いながら設計等の検討を進めます。

なお、二谷小学校は現在の学級規模で推移する場合、校舎のみを建替え、体育館は存置します。

## 【部会における主な発言や質問】

(会議録)



(凡例 ★：委員等からの主な発言 ⇒：事務局からの説明・回答)

※紙面の都合上、発言の要旨を掲載しています。また、発言の趣旨が伝わるよう、一部修正して  
います。会議の詳細については、会議録を御覧ください。

### 【教育委員会事務局からの提案及び検討部会としての結論について議論】

(事務局からの提案を提示)

★ 事務局からの提案の中で「70年を目途に改めて検討します。」とあるが、建替えまたは斎藤分小をどうするのかをこの時点で検討するということか。

⇒ 「70年を目途に改めて検討します。その際には、斎藤分小学校の通学区域の再編成や老朽化対策の手法等を議論することを提案します。」と考えています。

★ 青木小学校の結論はいつ頃までに出るのでしょうか。

⇒ 青木小学校の通学区域の見直しの有無によって、二谷小学校の建替えに影響することも認識しており、建替えがさらに先に延びることも、適切ではないと考えています。今後、青木小学校の検討が開始されるので、具体的にいつまでとは申し上げられませんが、スピード感をもって、二谷小学校の建替えに影響がないよう、関係者の皆様と方向性を見出していきたいと考えています。

★ 二谷小学校の体育館は、建て替えないとのことだが、空調も整備されないままなのではないでしょうか。

⇒ 空調設備は整備予定です。その他、中の設備的な面は都度、更新していきたくと考えています。

★ 建て替える二谷小学校のグラウンドがより狭くなってしまわないかと思うが。

⇒ 既存のグラウンド面積よりも狭くならないよう、配置計画を検討してまいります。

★ 学校統合の有無について、教育委員会が権限をもって強引に進めていくのかなと思っていたら、意外と柔軟な態度でした。それゆえに、3年もかかってしまったのだと思います。展望のない現実に対し、現実の問題に直面している地域の皆さんが、社会の状況や思惑に振り回されることなく、ブレのない考えに支えられていることが必要だと思います。

★ 青木小学校の教室不足問題は今出てきた話ではないですが、断続的なマンション開発がじわりと効いてきています。結果的にこの問題がなければ、統合の問題はまだ先延ばしにされていたのではと思います。

★ 二谷小学校の建替えの際は、教育委員会の中だけで検討するのではなく、地域や学校関係者等々も巻き込んで計画し、地域や学校の先生方も納得するような形で計画していただければと思います。

★ 青木小学校の問題は、ここまで数値化されると非常に怖いなと思いました。なぜもっと早く分からなかったのか。今まで統廃合を進めるなかで、他では大丈夫だったのかと思いました。教育委員会も事業者がどこに集合住宅を建てるのか、民間が行うことなので予想がしづらいこともあると思いますが、各方面にアンテナを張り巡らすなど、考えていただきたいです。

★ 小規模校だから様々な問題があるという通説がありますが、小規模校の中には、問題がある学校もあるかもしれないが、問題のない学校もあります。また、今回の青木小学校のように、学校規模適正化の対象となった学校だけでなく、その区全体の動向を見ていただいて、計画を考えていただきたいと思います。

★ 青木小学校における教室不足の問題という新たな要素が加わったので、二谷小学校を建替える際には、速やかに、また収容ができるよう検討を進めていただきたいです。

★ 斎藤分小学校は35人ぎりぎりの1学級であり、同学年の同級生が少ない学校ではありません。教育委員会事務局から説明されてきた小規模校のデメリットを上回るメリットが斎藤分小学校

にはあることをこれまで意見してきました。また、学区内の幼稚園等、これから当事者となる方の意見について吸い上げられなかった、発信できなかったことは、今回出た課題だと思います。

★ もし統合となっていた場合は、同じ町内会で通学する小学校が分かれてしまうようなことも想定されていましたので、今回の提案については、歓迎しています。

★ 地域の意見は様々ですが、多少、行政側で強引に進めないといけないと思います。意見を聞くことは大事ですが、意見を聞きすぎてしまうと事業が進まず、難しくなってしまうと思いました。今回は、地域の反対というより、周辺の状況が変化したことで、学校規模の適正化が不要となったと受け止めています。

★ 小規模校・適正規模校・過大規模校それぞれにメリット・デメリットがあります。ただし教育は、国や市などの行政が提供している公共サービスであり、学校の規模というものはある程度平均的なところを求めていくべきだと思います。

★ 神奈川区全体の児童数の推計では、令和12年度には約1500人程度減少し、小学校約3校分が減ることになり、現状の数を維持するのは難しいとも思います。市全体として個別支援学級の児童も増えているようなことも考慮して、今後は検討していくことも必要だと思います。

★ 学校規模に係る基本方針や規則について、現状のままで本当に良いのかと、この3年間の間で感じました。地域によって様々な状況があるということも含めて、今後、学校統合や学校再編を進めていく際には、今回の議論をいかしてほしいと思います。

★ 検討開始当初、斎藤分小学校も二谷小学校も、学習環境が良くなることを期待していましたが、中々それが叶わないことや、建替えの時期が遅れたことにより、新しい校舎で卒業できたかもしれない子どもたちが、現状のままの校舎で卒業していくことになってしまいました。そうした反省点も次に生かしてほしいですし、今後の設計等では、地域の方々の声も是非、拾い上げてほしいと思います。

★ 教育委員会も、市の中で様々な部局があると思いますが、しっかりとコミュニケーション、連携を取っていただいて、少しでも将来の見通しがより立てられるような形で考えていただければと思います。

#### 《事務局からの提案について、賛成多数で了承》

#### **【検討部会で取りまとめる意見書についての議論】**

(事務局より意見書案を提示)

★ 斎藤分小学校がいわゆる小規模校としてのデメリットがあり、解消しなければならない存在にあるということは納得していないので、(2)今後の斎藤分小学校についての冒頭「教育委員会が目指す学校規模適正化の趣旨については、理解しました。」という一文は削除いただきたいです。また、修繕等の改修が対象外にならないように、必要な改修については、児童の環境を守るという視点でしっかりやっていただきたいという点を書き加えていただきたいと思います。

★ 反対意見がなければ、委員からの意見のとおり、削除と加筆するかたちでよろしいでしょうか。

★ 異議なし。

★ 修正した意見書については、委員の皆さまに御確認いただいたうえで、横浜市学校規模等適正化検討委員会へ提出するという形となります。

#### 《修正した意見書を各委員に御確認いただき、意見書が確定》

令和6年12月4日

横浜市学校規模適正化等検討委員会

「齋藤分小学校・二谷小学校」  
建替えに伴う学校規模適正化等検討部会

「齋藤分小学校・二谷小学校」  
建替えに伴う学校規模適正化等に関する意見書

(意見書)



## 1 学校統合について

### (1) 検討部会としての決定事項

齋藤分小学校と二谷小学校は学校統合を行わず、齋藤分小学校については当面の間存続とし、二谷小学校については、単独での建替えに着手すべきと考えます。

なお、齋藤分小学校については、今後の児童数の推移を注視しつつ、教育委員会からの提案を受けて、学校施設の目標耐用年数である70年を目途に、齋藤分小学校単体の学校の在り方を検討するよう提案します。

### (2) 検討経緯

教育委員会から、「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針」と「横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針」に基づき、二谷小学校の建替えに伴って、隣接する齋藤分小学校との統合が提案されました。その後、検討を重ねてきましたが、第5回検討部会において、隣接する青木小学校において教室不足が発生する恐れがあり、その対策として両校に係る通学区域の見直しの可能性があることを教育委員会から示されました。今後、青木小学校の教室不足対策が具体的に検討された結果として、通学区域の見直しを行い、青木小学校の隣接校である齋藤分小学校、二谷小学校の2校において児童の受け入れが必要となる可能性が考えられることから、(1)のとおり検討部会としての考え方をとりまとめました。

## 2 教育委員会への要望

### (1) 検討部会の進め方について

教育委員会による学校統合の必要性についての説明が部会委員に十分に伝わらず、部会の検討に時間を費やしました。環境が変わる児童、保護者、地域住民の理解が大切になりますので、分かりやすく丁寧な説明が必要だったと考えます。

横浜市全体を見渡せば児童数は減少していますが、青木小学校の通学区域のように、今後児童数が大きく増える見込みの地域もあります。学校規模適正化を進めるにあたっては、検討の初期段階から、対象校のみならず周辺校のまちづくりの動向や教室不足等の情報把握に努め、最適な学校規模適正化を提案いただくようお願いします。

### (2) 今後の齋藤分小学校について

齋藤分小学校の敷地条件を考慮すると、狭隘道路で囲まれていることや第一種低層住居専用地域であることから、現在の建替え技術では工期の短縮等が難しいなどの課題があることは理解しました。

今後、齋藤分小学校が目標耐用年数である70年を迎えた段階で適正規模校だった場合には、建替え等を視野に入れた検討を行っていただき、一方、小規模校だった場合は、教育委員会からの提案に基づき、通学区域の再編成や老朽化対策の手法等を検討する場を設けていただくよう、お願いします。

また、児童等の安全を考慮した、学校運営に必要な保全等を引き続き実施していただくようお願いします。

### (3) 今後の二谷小学校について

学校施設の目標耐用年数である70年が目前に迫る中、二谷小学校に通う児童の保護者や、今後二谷小学校に入学する未就学児の保護者からも、建替えが遅れていることに対して不安の声が寄せられています。本検討部会での議論が長期に渡ったことで二谷小学校の建替えが当初、説明を受けたスケジュールから大幅に遅れたことについて、教育委員会は真摯に向き合っていたいただきたいと思います。

建替えを進めるにあたっては、当初の提案に基づきグラウンドを既存面積より広く取り、建替え後、グラウンドに仮設校舎等が設置されず、児童が安全・安心で快適な学校生活を送れるような学校施設を目指してください。またその際には、学校関係者や地域の声にも耳を傾けていただきながら、一緒に新しい学校づくりを進めていくようお願いいたします。

なお、建替え工事に着手した際には、例えばグラウンドが使用できないことの代替措置として、隣接する県立高校のグラウンドを借用できるよう、教育委員会に支援いただくようお願いいたします。

## 【横浜市学校規模適正化等検討委員会で決定された答申書】 ※紙面の都合上、体裁を一部修正しています。

令和6年12月4日

横浜市教育委員会

横浜市学校規模適正化等検討委員会

(答申書)



学校規模適正化等について（答申）

令和3年7月5日付で諮問のありました標記の件について、別紙「斎藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等に関する意見書のとおり、斎藤分小学校と二谷小学校の学校統合は行わず、斎藤分小学校は当面の間、存続することとし、二谷小学校は、単独での建替えに着手されるよう答申する。

### ◎ 横浜市学校規模適正化等検討委員会での意見等

- 時間はかかりましたが、青木小学校の状況等、検討当初から状況が大きく変わり、新たな予測が出てきたということで、このような結論を検討部会で導かれたことは良かったと思います。
- 教育委員会としても、検討部会からの要望を真摯に受け止めて、地域からの御理解と、その後の対応について、検討していくことが望ましいと思います。
- 今後も生活をしていく中で新たな課題も出てくると思いますので、地域に住まわれている方々や、子どもたちが安心して生活し、学校に通える方策を引き続き、模索していくことが必要だと思います。

### ◆事務局からのお知らせ

「斎藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会は、横浜市学校規模適正化等検討委員会への意見書の提出をもって終了しました。これまで御協力いただきました地域・保護者の皆さまに心よりお礼申し上げます。

### ◆「斎藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会の経過等について

検討部会の会議案内や当日資料、会議録、ニュース、意見書等については、ホームページからも御覧になれます。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/tekiseika/shokibo/saitobunfutatsuya.html>



### ◆事務局（お問い合わせ先）

皆さまからの御意見や御質問を受け付けております。Eメール、電話またはFAXでお寄せ下さい。  
横浜市教育委員会事務局施設部

Eメール：ky-kanagawa2021@city.yokohama.lg.jp TEL：045-671-3252 FAX：045-651-1417

